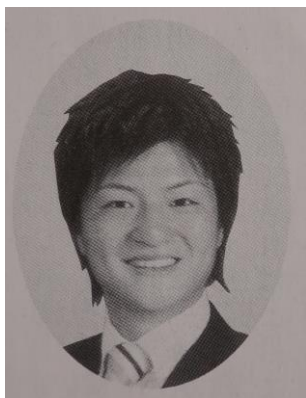


新生相馬高校の息吹^(※1)高理第32回卒 木村 智宏^(※2)

私が相高生になったのは、平成12年。高校生のころの記憶は少しずつ失いつつありますが（まだ8年しか経っていないのに・・・）、入学当初の出来事は今も鮮明に覚えています。上級生による校歌指導。あれだけは、一生忘れないでしょう。大きな声を出さないと「ちんちえ！」と怒鳴られる。力を振り絞り、大きな声で歌えば、「君いい声してるね。じゃ、頭出しやれ！」と頭出しになり、結局「ちんちえ！」と怒鳴られる。とんでもない高校に入ってしまったと後悔しても、時既に遅し。1週間が1ヶ月以上に感じられる地獄の日々。地獄の特訓を経ての相高・原高定期戦。そして地獄を乗り越えた後に得ることの出来る、大きな達成感とクラスメイトとの連帯感。今となっては、高校時代を代表する素晴らしい思い出です。

私は、3つ上の長男、1つ上の次男と共に相馬高校の生徒会長だった影響もあり、生徒会長を勤めさせていただきました。当時は、兄弟3人が会長を勤めるということに、特に気にしていませんでした。ですが、今考えてみると、とても貴重な経験をさせていただいたと感じております。卒業式で、兄が答辞を読み、私が送辞を読んだことは、今では家族や友人の間で、いい笑い話となっております。

さて、私は現在、様々な縁あって、相馬高校に国語教師として勤務しております。私は、男子校・旧校舎最後の卒業生です。私の卒業と同時に相馬高校は共学化、校舎も新しく変わりました。私は、男子校時代と現在の共学相馬高校の両方を見ている数少ない人間といえるでしょう。そこで、相馬高校OBかつ相馬高校の現教員として、現在の相高の様子をお伝えします。

現在の相馬高校において、何よりもまず特筆すべきは、女子のパワーです。休み時間になると、いたる所から女子の声が聞こえてきます。球技大会や強歩大会などの体育行事にも、彼女たちはいつでも全力で挑んでいます。うれしさ、悔しさのあまり、涙を流すこともしばしば。これは、以前の相馬高校には見られなかった光景でしょう。

では男子はどうか？共学化が決定した当初、私を含め様々な方々が、健男児・相高の硬派なイメージが崩れることを不安に感じたことでしょう。ですがご安心ください。今の相高男子生徒はやるときはやる男達です。相高生なら誰もが通る試練である校歌指導は、女子生徒が関わっても以前と変わらぬ厳しさ（恐ろしさ？）があります。部活動も、男子生徒減少に伴う部員の減少は見られるものの、以前と変わらず活発に行われています。

また、相馬高校の伝統である元気な挨拶は、今もしっかりと受け継がれています。男女問わず、廊下ですれ違う度に大きな声で挨拶をしてくれます。みなさん、ぜひ一度相馬高校を訪れてみてください。高校生たちの元気な挨拶に、きっと驚くに違いありません。

今の相馬高校は、男子校時代の伝統を引き継ぎつつも、女子の加入によって新たな校風ができあがりつつあるように感じます。相馬高校は創立110周年を迎えましたが、生まれ変わったばかりの学校でもあるのです。新生相馬高校が、これからどのように育っていくのか、これからもずっと見守っていきたいと思います。

(※1) 創立110周年記念誌『紅の旗』(2009(平成21)年1月発行)「思い出の記」〈ああ、我が青春の日々よ〉より

(※2) 平成15(2003)年卒、大野出身。

(転記&※脚注 村山)